

平成31年3～4月の文書館月替展示について
「おくりもので御国自慢」

1 展示概要

お土産に……。プレゼントに……。お中元にお歳暮に……。今も昔も、やっぱりうれしい贈答品。現代よりも品物の調達、保管、輸送がたいへんだった江戸時代、しかしそんな苦勞はものともせず、贈答は生活の一部といえるほど、頻りにやりとりがなされていました。

あんな物が？あんな時に？あんな人が？あんな人に？展示では、春夏秋冬たえまなく、人々の間を行き交っていた贈答品を、福井藩を中心に紹介します。

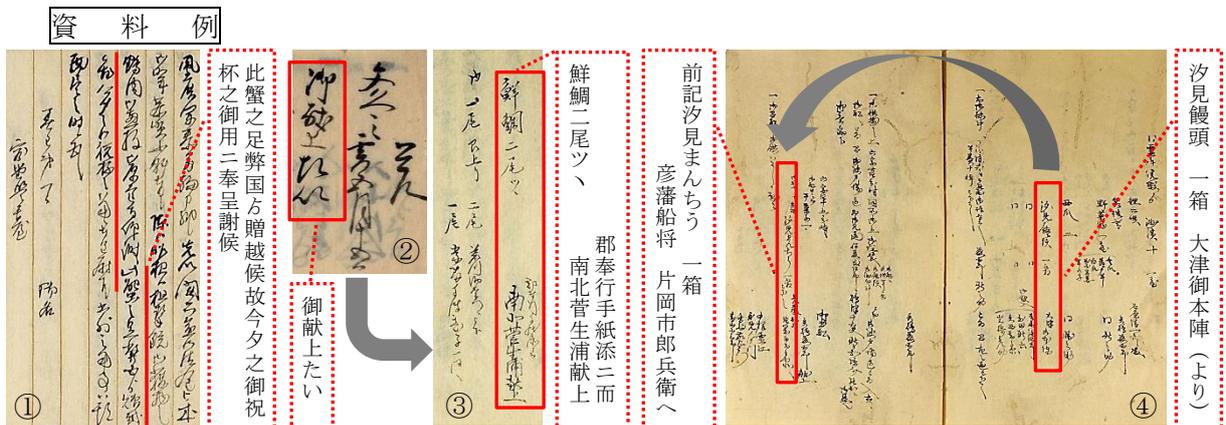
※展示にあたっては、昨年秋に公開したオープンデータ「幕末福井関連資料データ」を利用しています。

2 期 間 平成31年3月1日(金)～4月24日(水) 文書館閲覧室

3 主な展示資料 (一部は複製)

品物	いつ/どこで/だれが→だれに	内容/資料
春嶽・容堂 おくりもの合戦 盃→鶴→蟹→鯨	文久3年(1863)12月28日～文久4年 正月2日 於京都 松平春嶽→山内容堂→春嶽→容堂→春嶽	・春嶽→(約束していた盃)→容堂→(ライフル銃で獲った鶴) →春嶽→(国元から届いた蟹)→容堂→(蟹のお礼に鯨)→ 春嶽 松平文庫「御書翰」(県立図書館保管)、同「御来翰」
はじまりは 大坂冬の陣 寒中生鱈	文久2年(1862)9月13日 於江戸 福井藩松平家→将軍家	・文久の改革で幕府が献上品・贈答品の受付を制限 ・福井藩は“寒中生鱈”と“将軍拝領の鷹で獲った雁・鴨” の献上継続を伺い立て(鱈は継続、雁・鴨は中止の回答) 松平文庫「越前世譜 茂昭様御代(6)」
幕政のトップ! 老中水野家御用達 若狭塗箸	天保2年(1831)7月25日 於江戸 小浜藩酒井家→沼津藩水野家(当主忠成 は当時老中首座)	・水野家から突然のお呼び出し、なにかと思えば若狭塗箸の ご用命 酒井家文書「酒井家御代記 参」(小浜市立図書館蔵)、酒井家編年 史料稿本「酒井家編年史料稿本 卷五百六十五」(同)
浦の魚が春嶽公の ご膳に!お口に!! 越前海岸の鯛	文久2年(1863)5月16日 於福井 南北菅生浦(越前岬と三国湊との間、現 在の福井市南菅生町・北菅生町)→春嶽	・現在の福井市南菅生町・北菅生町(越前岬と三国湊の間) ・鯛を南浦・北浦から2尾ずつ献上、春嶽は「内一尾召上り」 松田三左衛門家文書「覚(御献上たい他諸覚)」(当館蔵) 松平文庫「御側向頭取御用日記(6)」
右から左へ 汐見饅頭	慶応3年(1867)8月6日 於琵琶湖(大津発・長浜行の船) 春嶽→彦根藩船奉行	・京都から福井への帰路 ・福井の春嶽が大津の本陣でもらった汐見饅頭を琵琶湖 を渡る船の中で彦根の船奉行にあげる 松平文庫「御側向頭取御用日記(14)」

4 その他 展示のガイドペーパーを配布



①春嶽・容堂おくりもの合戦(松平文庫「御書翰 三」) ②③浦の魚が春嶽公のご膳に!お口に!!(松田三左衛門家文書「覚(御献上たい他諸覚)」松平文庫「御側向頭取御用日記(6)」) ④右から左へ汐見饅頭(松平文庫「御側向頭取御用日記(14)」)